

# 読売新聞に掲載されました

平成28年1月10日(日)

## 病院の 実力

～神奈川編 95

### 脳卒中

#### 早期治療 後遺症少なくて

今回の病院の実力は、脳卒中を取り上げる。脳卒中には、脳の血管が詰まる「脳梗塞」、脳の血管が破れる「脳出血」、脳を包むくも膜の下で脳動脈瘤が破裂する「くも膜下出血」がある。

「脳卒中ケアユニット」は、脳卒中の診療体制を整える。脳卒中の診療体制を整える。脳卒中の診療体制を整える。脳卒中の診療体制を整える。

脳卒中は早く治療を行うほど後遺症が少ない。発症から4時間以内は血栓（血液の塊）を「t-PA」という点滴薬で溶かす治療が広く行われている。血管内か

ら血栓を吸い出すなどの新たな治療を導入する施設も増えている。くも膜下出血には、開頭して金属製のクリップで脳動脈瘤をはさむ手術と、腕や脚の付け根からカテーテル（細い管）を通し、血管の内側からコイルを詰めて瘤をふさぐ血管内治療が主に行われる。未破裂の脳動脈瘤にもこれらの方法でくも膜下出血を防ぐ治療を行

う施設が多い。脳卒中ケアユニットは、専門医や理学療法士など豊富なスタッフで24時間診療できる体制があり、発症直

後から、退院後の生活を見据えた治療とリハビリを計画的に行う専門の病棟だ。診療体制の充実度を見る大きな目安になる。

「脳卒中ケアユニット」は、脳卒中の診療体制を整える。脳卒中の診療体制を整える。脳卒中の診療体制を整える。脳卒中の診療体制を整える。

「セ」はセンター。「国・」は独立行政法人国立病院機構。「地・」は地域医療機能推進機構。「一」は不明または無回答。未破裂脳動脈瘤の治療は開頭手術と血管内治療の件数を合計しており、不明または無回答の場合は0件とみなした。

脳卒中は成人病の延長線上にあり、誰にでも起こりうる病気だ。脳卒中の75％は脳梗塞。脳梗塞の発症は手がかりが少なく、難しいが、一時的な手足のしびれ、顔の一部のまひ、言語障害などは危険信号だ。脳出血やくも膜下出血は、頭痛や嘔吐などの初期症状が起こりやすい。60歳代以上の患者が多いが、最近では30歳代の若い患者も増えてきている。

脳卒中の治療は時間との勝負になる。どれだけ早く治療したかで、回復状態が大きく変わってくる。一方で、発症して意識がない状態から急性期治療を受けた患者が、日常生活を送れるくらいに回復した例もあり、早い人は1～2週間で退院できる。と森本院長はお話しました。

I（磁気共鳴画像装置）だけでなく、脳の血管まで検査するMRA（磁気共鳴血管造影法）も併せて実施している。予防には、不規則な生活の改善、ストレス解消、適度な運動や水分補給が大切だ。頭痛や手足のしびれなど気になることがあれば、症状が軽くても診察に来てほしい。脳卒中を予防することは、寝たきりや認知症の防止にもなる。いざという時のために、複数の専門医を抱え、診察から検査結果が出るまでの機動性が高い病院を、あらかじめ見つけておいてほしい。

### 病院の実力「脳卒中」

医療機関別2014年度治療実績  
(読売新聞調べ)

医療機関名	脳梗塞の新規入院患者数(人)	くも膜下出血の新規入院患者数(人)	未破裂脳動脈瘤の治療を受けた患者数(人)	「脳卒中ケアユニット」診療体制の有無(○はあり)
横浜新都市脳神経外科	787	65	93	○
横浜市立脳卒中・神経脊髄セ	562	56	10	○
湘南鎌倉総合	443	57	28	○
川崎幸	332	32	27	○
海老名総合	328	79	13	○
済生会横浜市東部	314	49	44	○
秋山脳神経外科内科	305	22	11	○
横浜労災	298	36	17	○
国・横浜医療セ	291	48	94	○
聖マリアンナ医大	276	40	19	○
平塚共済	275	34	7	○
横浜栄共済	262	30	16	○
湘南藤沢徳洲会	246	15	9	○
脳神経外科東横浜	242	38	32	○
イムス横浜狩場脳神経外科	236	15	3	○
昭和大藤が丘	229	35	39	○
横浜旭中央総合	229	31	14	○
市立川崎	222	31	10	○
東戸塚記念	203	9	9	○
厚木市立	196	14	4	○
新百合ヶ丘総合	185	44	19	○
平塚市民	180	32	6	○
大和市立	180	18	2	○
麻生総合	167	27	3	○
東名厚木	154	28	2	○
汐田総合	153	9	8	○
相模原協同	144	12	21	○
川崎市立多摩	119	14	14	○
聖マリアンナ医大横浜市西部	111	54	75	○
北里大	99	66	33	○
地・横浜中央	93	10	1	○
横浜市大病院	89	5	11	○
横浜市大市民総合医療セ	81	25	45	○

「セ」はセンター。「国・」は独立行政法人国立病院機構。「地・」は地域医療機能推進機構。「一」は不明または無回答。未破裂脳動脈瘤の治療は開頭手術と血管内治療の件数を合計しており、不明または無回答の場合は0件とみなした。

脳卒中は成人病の延長線上にあり、誰にでも起こりうる病気だ。脳卒中の75％は脳梗塞。脳梗塞の発症は手がかりが少なく、難しいが、一時的な手足のしびれ、顔の一部のまひ、言語障害などは危険信号だ。脳出血やくも膜下出血は、頭痛や嘔吐などの初期症状が起こりやすい。60歳代以上の患者が多いが、最近では30歳代の若い患者も増えてきている。

脳卒中の治療は時間との勝負になる。どれだけ早く治療したかで、回復状態が大きく変わってくる。一方で、発症して意識がない状態から急性期治療を受けた患者が、日常生活を送れるくらいに回復した例もあり、早い人は1～2週間で退院できる。と森本院長はお話しました。

I（磁気共鳴画像装置）だけでなく、脳の血管まで検査するMRA（磁気共鳴血管造影法）も併せて実施している。予防には、不規則な生活の改善、ストレス解消、適度な運動や水分補給が大切だ。頭痛や手足のしびれなど気になることがあれば、症状が軽くても診察に来てほしい。脳卒中を予防することは、寝たきりや認知症の防止にもなる。いざという時のために、複数の専門医を抱え、診察から検査結果が出るまでの機動性が高い病院を、あらかじめ見つけておいてほしい。



横浜新都市  
脳神経外科病院  
森本将史 院長

脳卒中は成人病の延長線上にあり、誰にでも起こりうる病気だ。脳卒中の75％は脳梗塞。脳梗塞の発症は手がかりが少なく、難しいが、一時的な手足のしびれ、顔の一部のまひ、言語障害などは危険信号だ。脳出血やくも膜下出血は、頭痛や嘔吐などの初期症状が起こりやすい。60歳代以上の患者が多いが、最近では30歳代の若い患者も増えてきている。

病院の実力で「脳卒中」が取り上げられました  
当院では、「病院の実力 2014 年度（脳梗塞の新規入院患者数 / くも膜下出血の新規入院患者数 / 未破裂脳動脈瘤の治療を受けた患者数）」治療実績で1位となり、インタビューを受けました。

脳梗塞は早く治療を行うほど後遺症が少ない。  
脳卒中の治療は時間との勝負になる。どれだけ早く治療したかで、回復状態が大きく変わってくる。一方で、発症して意識がない状態から急性期治療を受けた患者が、日常生活を送れるくらいに回復した例もあり、早い人は1～2週間で退院できる。と森本院長はお話しました。

※当院は「脳卒中ケアユニット」の算定をしております。

読売新聞医療部【編】 52 648円・税  
全国の病院へ  
専門記者による  
独自アンケートを実施

# 病院の 実力

ランキングではわからない！ 病院選びの決定版

## 2014 総合編

掲載病院データ  
8790  
最新情報掲載！

5大がん 肺・胃・大腸・肝臓・乳  
脳卒中 / 回復期リハビリ  
人工関節 / 緩和ケア  
皮膚の病気 / ペインクリニック  
血液がん / 炎症性腸疾患

心臓の病気  
血管の病気 / 眼科  
トピックス  
大動脈弁狭窄症に新治療

読売新聞社